

弊社ビート糖の輸送における JR貨物輸送の重要性について

日本甜菜製糖株式会社食品販売部

2024年8月8日

<弊社事業の特徴について>

日本ではてん菜は寒冷地である北海道でのみで栽培され、日本の砂糖の20%以上の消費量をまかなっております。特に、十勝地区は最大の産地となっており、輪作体系の維持など北海道の農業に大きく寄与しております。

弊社は北海道内のてん菜耕作者が栽培したてん菜(ビート)から北海道内の3工場(芽室、美幌、士別)にてお砂糖(てん菜糖)を製造しており、北海道内はもちろんのこと、本州以南の全国各地の需要者に供給しております。

<産糖量(7年中5年平均)>

芽室製糖所	16.4万t
美幌製糖所	6.1万t
士別製糖所	4.2万t
計	26.6万t

(日本の年間砂糖消費量176万t)

<弊社のパーパスについて>

畑から、食卓へ。

てん菜から広がる可能性を見だし、

人と環境にやさしいものづくりで、

北海道、そして日本の未来に貢献します。



日本甜菜製糖

＜日甜アグリーン戦略＞



NITTEN
AGREEN
STRATEGY

それは、常識にとらわれないアイデアに挑むプロジェクト。

人の健康のため

農業・酪農のため

地球環境のため

てん菜からつくるのは、砂糖だけじゃない。

パンの発酵を助けるイーストや、

牛のエサにだってなる。

樹脂や燃料など、食べもの以外にも化けていく。

畑では、てん菜のCO₂吸収力が注目される。

これまでのニッテンの成長は、

地域と農業なしではありえないもの。

いかにして、恩返しできるか。

合言葉は、アグリーンだ。

研究と情熱で、さあ、まだない価値をつくりだそう。

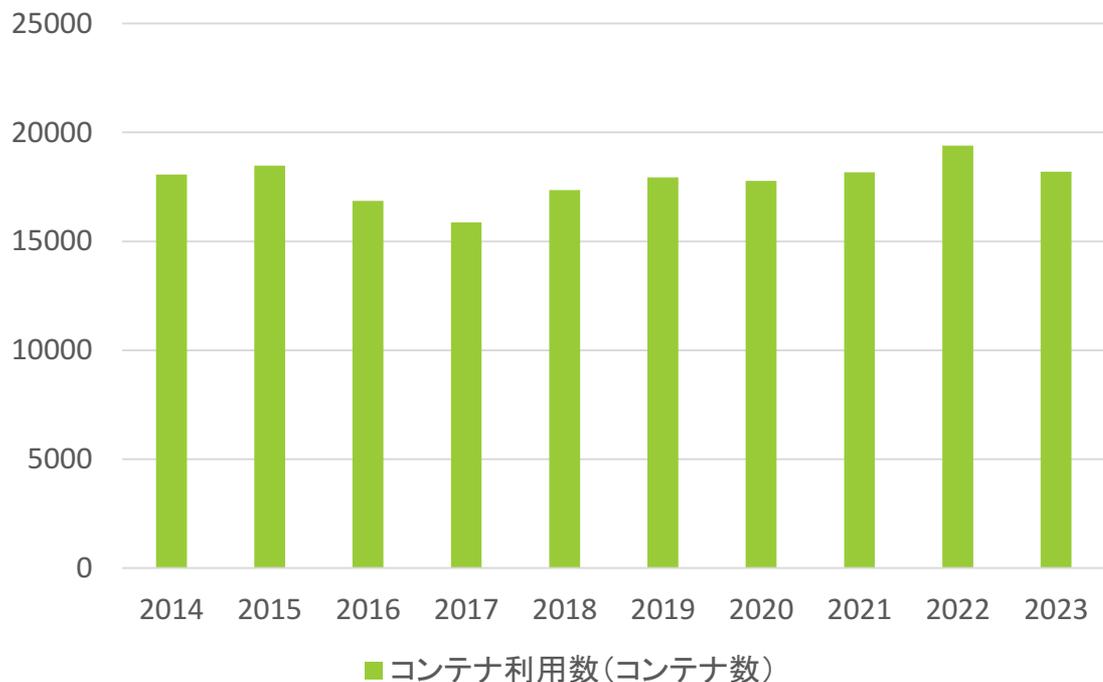
てん菜にできることは、
まだまだありそうです。

<弊社てん菜糖の半数はJR貨物にて輸送>



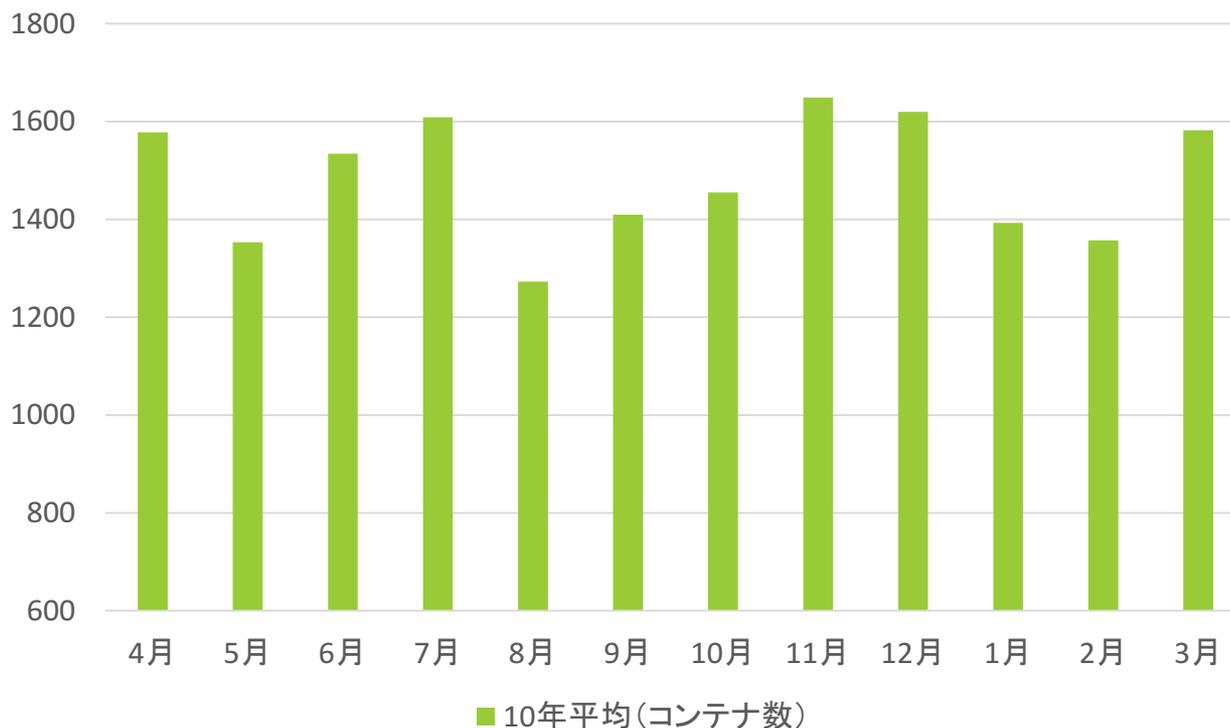
本州への輸送はJRコンテナの輸送が重要であり、特に海線は最も重要な路線となっている。

＜弊社のJR貨物コンテナの使用数量＞



農産物のため、豊凶の差はあるが、JR貨物コンテナを安定的に利用しております。

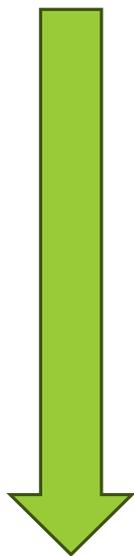
<弊社の月別輸送量について>



農産物を原材料としているが、秋ごろに集中するのではなく、比較的安定的な月別輸送量となっている。

<多くのユーザーに経済的な5t単位で納入>

弊社工場(北海道)

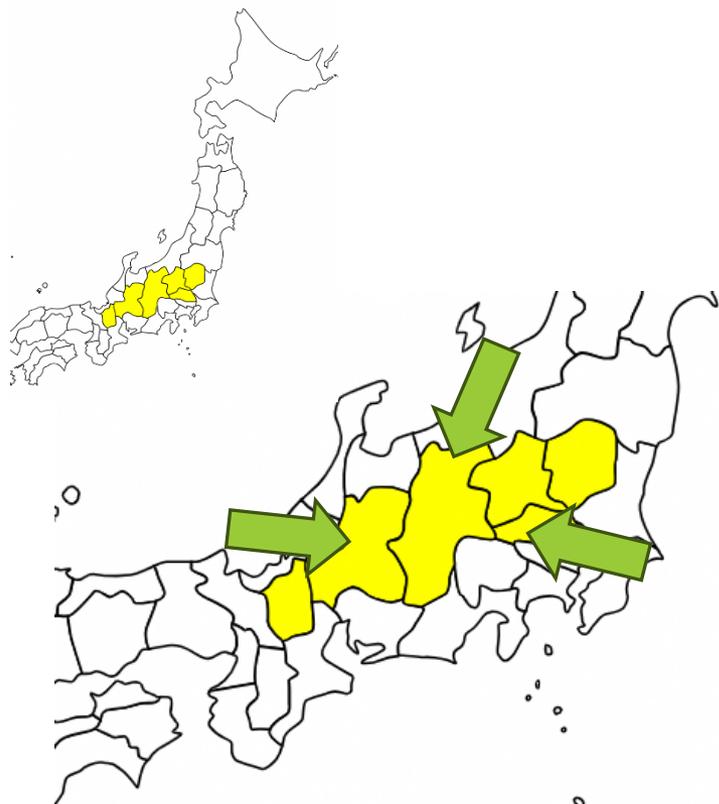


北海道から本州のユーザー(菓子や飲料メーカー)に、営業倉庫を経由せずに5tコンテナで直接納入。

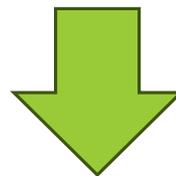
- × トレーラー(20t)は車輛が過大。
- × 少ない数量では高い配送単価
- 営業倉庫を経由しないことでCO2削減

本州ユーザーなど

<海なし県への砂糖の輸送について>



埼玉県や長野県などは、大手の飲料メーカーや菓子メーカーが多い。全国津々浦々まで張り巡らされている線路と異なり、海上コンテナでは港からの距離がある。



トラック輸送距離が長くなれば、多くのCO₂を発生させることとなる！

<まとめ>

- ・弊社の砂糖輸送において**約半数が海線を経由**して、本州の消費者に安定的に納入されております。
- ・JR貨物コンテナの単位(5t)は多くのユーザーにとって、**最適・経済的な数量単位**であり、本州での再配送頻度を少なくするメリットがあります。
- ・津々浦々まで延線しているため、海上コンテナを使用するよりも、**CO2削減の効果**があります。

弊社にとって、JR貨物輸送はかけがえのない輸送方法であり、JR貨物輸送が無ければ、弊社だけではなく多くの消費者にとって不利益が多いものとなると想定されております。